

はじめに

宇検村は、平成24年度(2012年度)を目標年度とし、「奄美文化の源・活力と連帯あふれるむらづくり」を基本理念とする「第4次宇検村長期振興計画」を平成15年に策定している。

この計画は、これまでの経緯、事業成果及び村民の意向を踏まえ、21世紀初頭の長期展望と村政の進め方を示したものである。特に本計画では、村民の和を基本とし、やすらぎと潤いのある宇検村、いわゆる「人が元気・村が元気・自然が元気の3つの元気のある村づくり」を基本的な視点として、地方の時代にふさわしい個性あるむらづくりを、村民と共に進めていく姿勢を示したものである。

上水道については、安全でおいしい水を安定的に供給するために、統合簡易水道施設整備事業を促進することが位置づけられている。

1 宇検村の概要と水道事業の沿革

1-1 宇検村の概要

本村は、鹿児島島の南南西383km、太平洋と東シナ海の接線上に位置する奄美大島の南西部の一面を占めており、行政区域内人口は2,066人(平成19年11月現在)の村である。

村の北部には標高694mの湯湾岳があり、頂上一帯の国有林の一部は昭和49年2月国定公園に指定され、学術上貴重な動植物が生存していることで知られている。

又、集落は、焼内湾の沿岸に沿って点在し、14の集落により構成されており、その入り江は天然の良港として遠近海漁船の避難港としても知られている。村内全域の土地構成は90%以上が山岳地帯で占められている。

本村は、北が大和村、東が住用村(現奄美市)、南が瀬戸内町に接し、東西を走る連峰で焼内湾が囲まれているため、冬期に北方から吹き込む寒風をさえぎり本村特有の温暖な気候をなしている。

1-2 水道事業の沿革

本村の水道施設は、平成17年度に宇検村北部地区簡易水道が創設されるまでは、9簡易水道施設(湯湾地区、田検地区、芦検地区、生勝地区、宇検地区、部連地区、名柄地区、平田地区、阿室地区)と3飲料水供給施設(新小勝地区、佐念地区、屋鈍地区)の合わせて12の水道施設が焼内湾の沿岸に沿って点在していたが宇検村北部地区簡易水道の創設により、北部系統がソフト統合され、現在では5簡易水道施設(宇検村北部地区、部連地区、名柄地区、平田地区、阿室地区)と3飲料水供給施設(新小勝地区、佐念地区、屋鈍地区)の合わせて8水道施設となっている。(表-1)

又、平成20年度には、宇検村の全水道施設をハード統合し、新設湯湾浄水場を基幹浄水場とした宇検村簡易水道事業として創設認可を受ける予定である。

表 1 宇検村水道事業の現状

事業	認可年度	計画給水人口 (人)	現在区域内人口 (人)	計画 1 日最大給水量 (m ³ /日)
① 宇検村北部地区簡易水道	平成17年度	1,485 人	1,496 人	728 m ³ /日
② 部連地区簡易水道	昭和55年度	110 人	29 人	28 m ³ /日
③ 名柄地区簡易水道	昭和59年度	200 人	151 人	60 m ³ /日
④ 平田地区簡易水道	昭和38年度	350 人	117 人	53 m ³ /日
⑤ 阿室地区簡易水道	昭和47年度	150 人	69 人	31 m ³ /日
⑥ 新小勝地区飲料水供給施設	昭和64年度	98 人	114 人	24.5 m ³ /日
⑦ 佐念地区飲料水供給施設	昭和47年度	85 人	38 人	13 m ³ /日
⑧ 屋鈍地区飲料水供給施設	平成10年度	80 人	52 人	24 m ³ /日